

高水準での推移を続ける米CPI

ポイント① 米CPI、約39年ぶりの高水準

12月10日に発表された11月の米CPI（消費者物価指数）は、事前の市場予想通り、前年同月比で+6.8%と、第二次石油危機下の1982年6月以来、約39年ぶりの高水準を記録しました。一方で、前月比では+0.8%と、10月の同+0.9%から僅かに減速する結果となりました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコア指数でも、前年同月比で+4.9%、前月比で+0.5%と、前月比での伸びが減速しており、過度なインフレ圧力は、徐々に峠を越しつつあるという見方もできそうです。

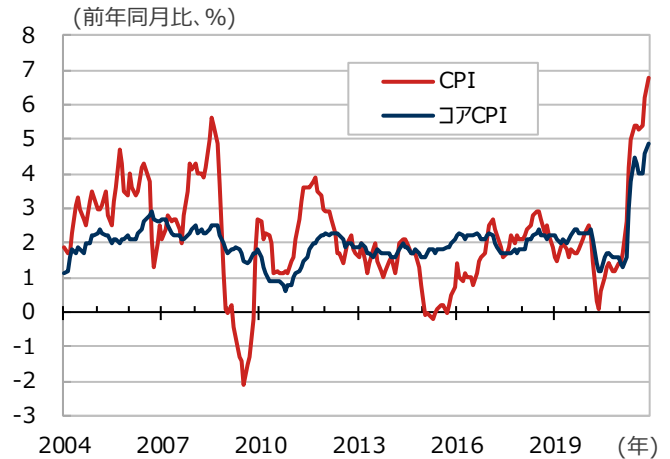
ポイント② 量的緩和の縮小ペースは加速か

項目別では、エネルギーが前月比で+3.5%と、10月の同+4.8%から減速した一方、帰属家賃を含むほぼ全ての項目で、価格の上昇が続いています。直近では、長期化する物価上昇について、FRB（米連邦準備制度理事会）のパウエル議長も、従来の「一時的」との見解を撤回した上で、「インフレが定着しないような手段を講じる」姿勢を示しています。新型コロナウイルス「オミクロン型」が、さらなる供給制約を招く可能性も踏まえると、FRBが早期利上げに踏み切る公算も高く、15日の金融政策発表では、利上げ前に完了させる予定の、「量的緩和の縮小」について、「加速」の言及があるか、注目が集まります。

ポイント③ 米10年債利回りは小幅に低下

11月のCPIは高水準となりましたが、事前の市場予想通りの上昇となったため、CPI発表後の米10年債利回りは小幅に低下、米ドルは対円で小幅に下落する展開となりました。市場の見方は、FRBの金融政策の方針に先送りされたものと思われる。

米消費者物価指数の推移



期間：2004年1月～2021年11月、月次
 (注) コアCPIはエネルギー、食品除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米10年債利回りと為替の推移



期間：2019年12月31日～2021年12月10日、日次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 12月15日 米金融政策発表、米小売売上高（11月）
- 12月16日 米鋳工業生産指数（11月）